

騒音を緩和し、より快適な 道路を目指して

路肩の拡幅や遮音壁の改良及び低騒音舗装

今回は、「加古川バイパスリニューアル・メニュー」(対策案)のうち、路肩の拡幅や遮音壁の改良及び低騒音舗装の実施についてご紹介いたします。これらの対策案は、「加古川バイパスリニューアル検討委員会」(建設省・兵庫県・兵庫県警・加古川市)で素案として作成したものです。

また、2月末日までに皆様からいただきましたご意見の概要も掲載させていただきます。今後も地域の皆様や道路利用者等のご意見をいただきながら、工事実施に向けて取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。

加古川バイパスの路肩は、第二神明道路(3m)に比べ、幅2mと狭く、非常駐車帯の間隔が長いため、故障車等の駐車スペースが十分に確保できていません。また、路面清掃や落下物の回収等、道路の維持管理作業のためのスペースも確保できない状況です。

これらの課題を解消するため、加古川バイパスの路肩を拡幅したいと考えています。また、バイパス沿道では、急速に市街化が進み、バイパスの交通量が増大しており、沿道環境への配慮も必要となっています。遮音壁を改良するとともに、騒音の低減効果のある舗装(低騒音舗装)にしたいと考えています。

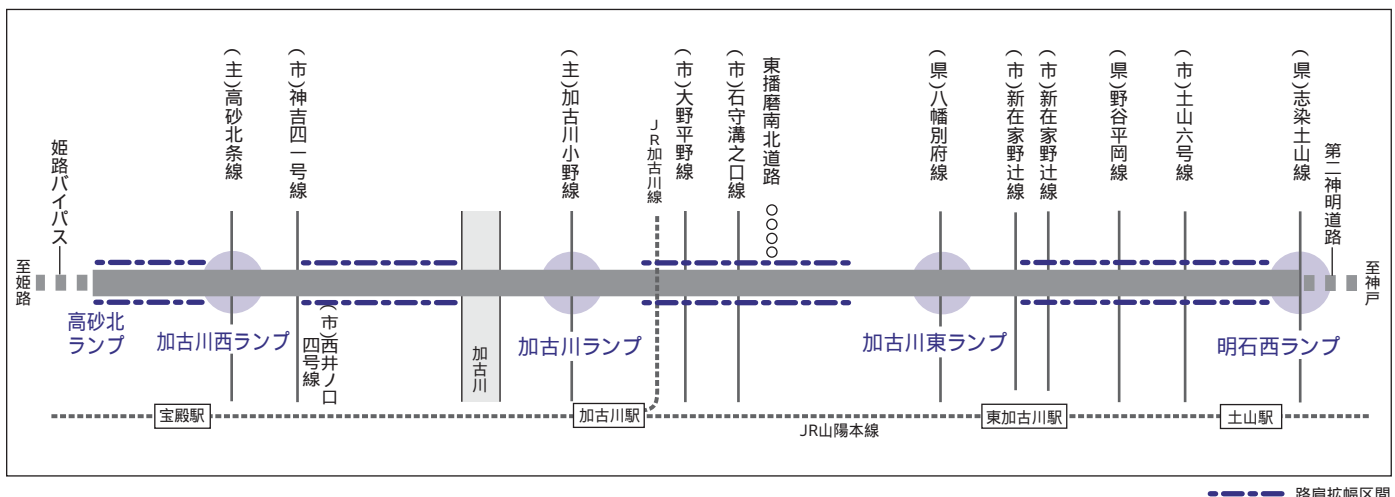


路肩の現況



遮音壁の現況

提案する路肩拡幅の概要



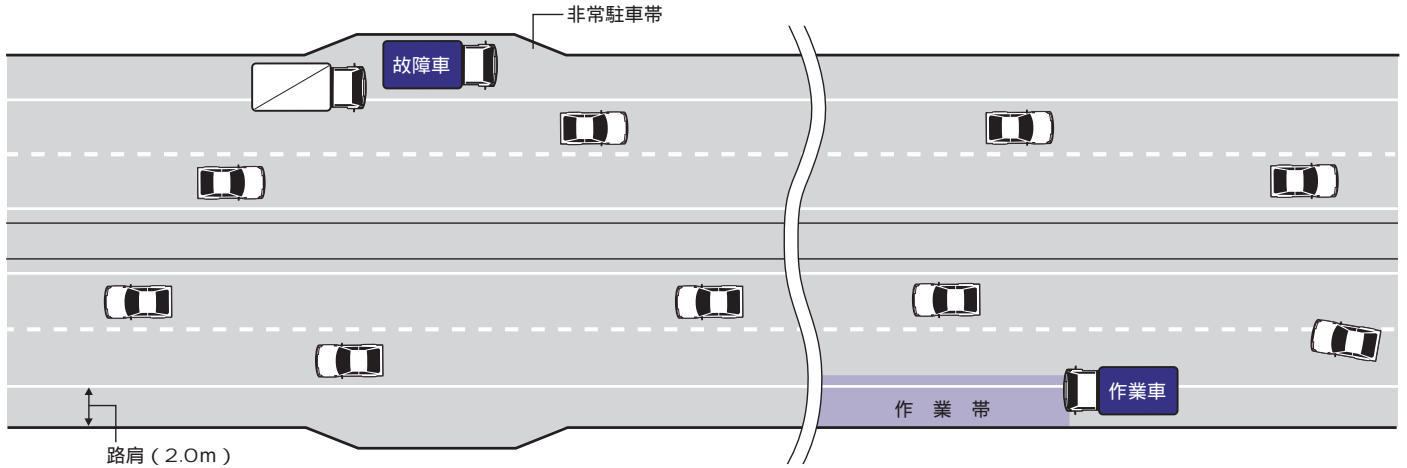
路肩拡幅区間

路肩の現状

バイパス本線の路肩が狭く、また非常駐車帯が不足

現状の加古川バイパスの路肩幅は、現在2.0mです。このため、大型トラックなどが、故障して停車すると路肩からはみだし、渋滞や事故の原因となります。

また、非常駐車帯が少なく、上下線ともに加古川バイパス（約12km）区間に8箇所しかありません。このため、交通事故車両や故障車両等を、本線の交通に影響しないように待避させることができません。



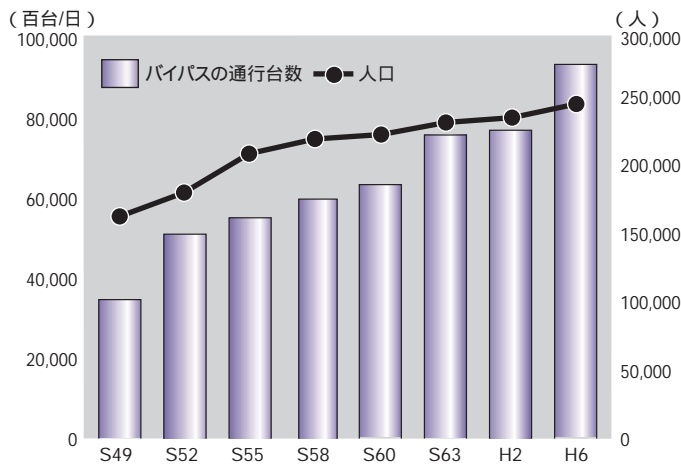
沿道の現状

バイパス沿道の市街化が進み、交通量も増加しています。

加古川バイパスの通行台数は、昭和49年の全線供用開始時の34,800台/日から、平成6年には93,700台/日へと20年間で約6万台も増加（伸び率2.7倍）となっています。また、この間バイパス沿道では人口増加に伴い、急速に市街化が進んできました。

加古川バイパス沿道の騒音状況は、平成8年度の調査によると、64～67dB(A)でした。

加古川市の人口及び通行台数の推移



加古川バイパス沿道の騒音状況 (L50)

東神吉町砂部 (上り側)

区分	調査地点	朝 6～8時	昼間 8～18時	夕 18～22時	夜間 22～6時
測定値	騒音レベル dB(A)	65	65	65	66
基準	環境基準 (住居系) dB(A)	55以下	60以下	55以下	50以下

調査日：平成9年1月調査結果

平岡町高畑 (下り側)

区分	調査地点	朝 6～8時	昼間 8～18時	夕 18～22時	夜間 22～6時
測定値	騒音レベル dB(A)	66	66	67	64
基準	環境基準 (工業系) dB(A)	65以下	65以下	65以下	60以下

調査日：平成9年1月調査結果

環境基準：生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準。

表に示す環境基準は平成8年度調査時点のものです。なお、平成11年4月に環境基準が改正されます。

騒音レベルのイメージ

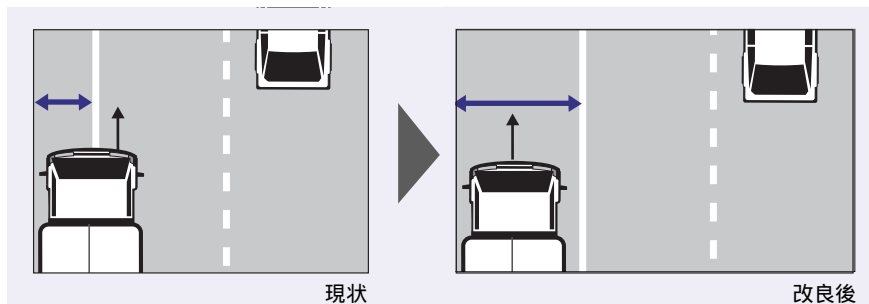
- 40dB(A) 市内の深夜、図書館、静かな住宅地の昼
- 50dB(A) 静かな事務所
- 60dB(A) 静かな乗用車、普通の会話
- 70dB(A) 電話のベル、騒々しい街頭、騒々しい事務所の中
- 80dB(A) 地下鉄の車内

安全で円滑な交通の確保

路肩のスペースを
十分確保し、
安全性の向上と
スムーズな走行を
実現します

第二神明道路と同様に、近年の車両の大型化にも対応できる幅3.0mの路肩を整備し、故障車などの待避・維持管理のスペースを確保することにより、渋滞・事故の軽減をはかります。

改良イメージ



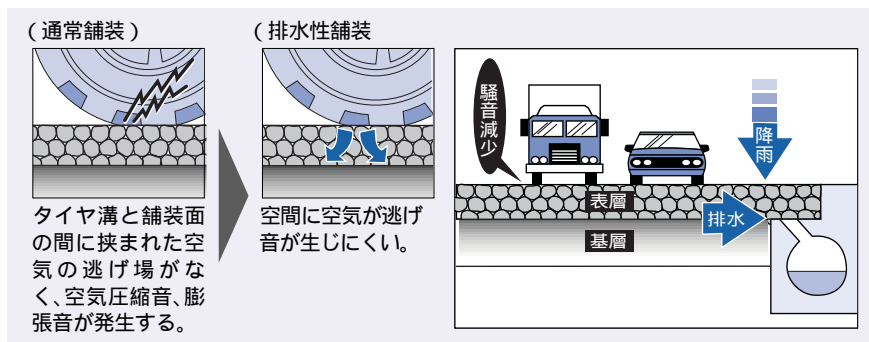
路肩の拡幅イメージ図

沿道環境の改善

低騒音舗装により
騒音を下げ、
雨天時の安全性の
向上を図ります。

遮音壁の改良を行うとともに、低騒音舗装（排水性舗装）を用いて、自動車のタイヤ音と路面との摩擦音を緩和します。また、路面の排水性が良いことから、雨天時の安全性が向上します。

タイヤ騒音発生の抑制



遮音壁の改良と排水性舗装路面のイメージ図

皆様からのご意見・要望のご紹介

現在までに「加古川バイパスリニューアルニュース」を3回にわたり発行してきましたが、これに対して平成11年2月末日までに、皆様から30通のご意見、ご要望が寄せられています。その内容を項目別に整理しますと、以下のとおりです。

これらの貴重なご意見・ご要望を参考にさせていただき、より良い加古川バイパスとなるよう検討を加えていきたいと考えています。

これからも、皆様からご意見をいただき、整備計画の策定を進めていきたいと考えています。

項目	ご意見・要望の内容（件数）
ランプ	加速車線が短くて危険であり、改良して欲しい。(1) 出口ランプを2車線に拡幅して欲しい。(3) 交通を分散できるように出口ランプを新設して欲しい。(3) 入口ランプを新設して欲しい。(1)
新加古川大橋	加古川を渡るだけの車両も本線に合流しなければならないので側道は上り、下りともに欲しい。(1) 加古川の左岸・右岸道路からバイパスへの進入がスムーズにできるようなインターチェンジ形式を考えて欲しい。(1) 側道（自転車・歩行者道）と左岸・右岸道路を立体化して欲しい。(1) 下り線に本線からの出口ランプを新設して欲しい。(1)
ボックス（穴門）	ボックスに接続している狭い市道は拡幅して欲しい。(3) 狭いボックスは自動車を通行止として欲しい。(3) 廃止は困る。(3) 廃止してもよいボックスがある。(4) 狭いボックスは拡幅して欲しい。(2) ボックス出口は一時停止の交通規制をする。(1) 対面通行にして欲しい。(2) リニューアルの改良内容が知りたい。(1)

項目	ご意見・要望の内容（件数）
交差点	側道に右折レーンを設置する。(4) 右折方法は内廻り方式に変更する。(2) 単車も内廻りができるように路面表示をして欲しい。(1) 信号のないインターチェンジ形式にして欲しい。(1)
側道	JR加古川線を高架にして、現在行き止まりの側道を連続して欲しい。(2) ランプとの合流部を拡幅して欲しい。(3) ランプとの合流部の信号は、別々の専用信号としてはどうか。(1) 側道を拡幅して欲しい。(3) ボックス（穴門）出入口付近では双方一時停止にする。(2) 歩道の段差をなくして欲しい。(2)
環境・その他	遮音壁を設置して欲しい。(3) 路面排水の悪い所を直して欲しい。(1) 効果的な交通情報を提供して欲しい。(2) 長期ビジョンに沿った計画をして欲しい。(1) リニューアルはバイパスのことしか考えていない。(1) 集まった意見・要望の概要を公表して欲しい。(1) E-mailでの意見受付はありがたい。(1) ホームページを開設したらどうか。(1) 沿道住民への説明会があるのか。(1) 歩行補助車運転教育を徹底して欲しい。(1) 公共交通機関（バス）を利用しやすくして欲しい。(1) 国道2号の一方通行区間を解除して欲しい。(1)

皆様からの意見、感想をお待ちしています。

今後の加古川バイパスリニューアル計画の策定の参考にさせていただきますので、ご意見やご感想を右記へお寄せください。送付方法は、郵送の他、ファクシミリ、インターネットでも結構です。ご協力よろしく申し上げます。

加古川市 土木部 道路建設課

〒675-8501 加古川市加古川町北在家23-1 TEL.0794-24-1151 FAX.0794-24-1374

E-mail: dob-kensetsu@city.kakogawa.hyogo.jp

建設省 姫路工事事務所 調査第一課

〒670-0947 姫路市北条1丁目250 TEL.0792-82-8211 FAX.0792-22-5843